

第 18 回全国市議会議長会研究フォーラム報告書

令和 5 年 11 月 14 日

貝塚市議会議長 南野敬介 殿

大阪維新の会 貝塚市議会議員団 中川 剛
樽谷 庄道
蓮池 陽佑
八野 裕嗣



日程：令和 5 年 10 月 25 日～26 日

場所：西日本総合展示場 新館

基調講演 「躍動的でワクワクする市議会に」

講師 片山善博氏（大正大学教授兼地域構想研究所長）

地方議会をめぐる現状は、決定機関が議会であり、その決めたことを執行するのが首長である。二元代表制が薄れている、投票率が低い、無投票、住民の関心が低いなどの問題提起をされた。議員の役割とは何か、首長が提出した予算案や条例案の内容をチェックし、与えられた審議議決権を行使して議案の可否を判断し、その結果に責任を持つことが本質。議会は立法機関であり、議案の最終決定者という自覚を欠いてはいけない。

そのためには、議案審議する際に住民が議会で直接、政策案に対して意見を述べる場を設けることや有識者を招き、専門的な見解も聴けば審議はさらに充実し、広く住民に理解を得られやすくなる。執行部も真剣に予算編成や政策立案しているが完璧ではない。

今後、地方議会に期待することとして、地方自治の砦になること。例えば、国の政策や方針が変わることに伴い、市町村で新規事業を予算化することなどがあるが、それが本当に地域の実情に即しているか内容を吟味し、自分たちの自治体に適したやり方ができるかが問われる。議会の形骸化は議員のなり手不足の原因でもある。有権者は選挙で議員候補を選ぶ際、公正かつ誠実で地域本位に考えられる人かどうか見極めてほしい。議会改革への一歩になる。

課題討議 「議員のなり手不足問題への取組報告」

先の統一地方選からみる地方政治の現状は負に向かっており、投票率は一部を除いて過去最低、無投票当選が深刻化しています。道府県議会議員選挙では無投票当選者率 25.0%、町村議会議員選挙 30.8%と後退、立候補者が定員を下回る定数割れが続出した。

データをもとに、なり手不足問題に取り組む登別市議会、枕崎市議会などから取組み報告が行われました。

議員のなり手不足は住民自治の劣化を招き、選挙がないことは議会・議員の正当性に疑問符が付き、

無投票で議員となった人から審判を仰ぎ、議案決定されることとなります。

投票率の低下とともに選挙を通過せずに当選することは民主主義の機能不全に陥ります。

議員のなり手不足の要因を探るには、政治構造の変化を読み解き、打開策を探求しなければならない、柔軟な発想、未来志向、働き方、多様性、透明性など、改革が必要と改めて実感しました。